

# 図書館だより

Library News No.58

Nara National College of Technology

2003年7月 奈良工業高等専門学校図書館発行



## 紫陽花 (あじさい)

アジサイの花前線は、梅雨前線と共に北上します。清廉でどこか淋し気な花ですが、花言葉は意外にも「高慢・法螺吹き・威張り屋・無情」などです。



## 桜桃の実

イラストはお行儀のよいさくらんぼたちですが、漱石の親友・虚子は、こんな楽しい句を作っています。

茎右往左往菓子器のさくらんぼ  
(高浜虚子)

表紙絵・4I 市川 まどかさん

## 目次

巻頭言「Human Genome 完全解説」に思う	2
新任教官からのメッセージ	3
卒業生からのメッセージ	5

図書館利用状況・統計等	10
最近の書棚から	11

## 巻頭言

# Human Genome 解読に思う

図書館長

宮本 止戈雄

1953年、英国キャベンディッシュ研究所でワトソンとクリックがDNA（遺伝子の本体＝遺伝子の担い手）が二重らせん構造をなしていることを発見しました。そしてヒト遺伝子の全貌を明らかにする国際プロジェクトが発足し、ゲノム（精子や卵に含まれる親から子へ伝えられる遺伝子情報）の本体がA（アデニン）、G（グアニン）、T（チミン）、C（シトシン）の4種類の塩基から成り立ちこの4文字の並び方によってすべての生命の営みが決められるということが判明しました。このヒトゲノムは約30億個の文字から成っていてゲノムDNAの中で直接働いている遺伝子はヒトの場合3万個から4万個あると推定されています。このゲノムを解析するという壮大な計画が解読プロジェクトにより、二重らせん構造発見から50年にして2003年4月ついに完了したのです。「ゲノム完全解読」のもたらすものは生命の基本を解明し、病気の克服・予防、科学・産業・社会への大きな波及効果など計り知れないものがあるでしょう。

生命の神秘は未だ保たれたままとはいえ、私たちは今、人間の全遺伝情報を手にしたといえます。このように科学技術の発展を思うとき、それを支え、実現してきた人間自身の構造の優秀さに感銘を受けます。人間を形づくる60兆もの細胞はネットワークで結ばれ機能分担しています。視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚（これらを総称して五感といいます）どれをとっても素晴らしい機能です。イタリア・ルネッサンス期の偉大な画家レオナルド・ダ・ヴィンチ（思想家にして、同時に科学者であり技術者である）は、人体構造の素描をたくさん描いています。彼の夥しいデッサンの数々は、自在に動かせる身体メカニズムに大きな感銘を受けた故のことと容易に推察できます。

しかしながら、人間がなお一層素晴らしいのは思考能力が優れているということではないでしょうか。けれどもこの素晴らしい機能や能力は努力を怠ると退化の一途を辿ります。人類はこれにより古来から現代に至るまで多くの文明を形成してきました。哲学、芸術、文学、科学・技術の発展において、その成果の蓄積は膨大です。学校で学んでいる事柄の多くはこれらを系統的に要約したものです。個性の相違はあっても、私達に等しく与えられた奇跡的とも言える恵まれた資質をどのように活かすかは私達自身が決める事になります。私たちは何をなすべきでしょうか。人間を、もっと直裁に言えば自分を信じ、五感を研ぎ澄まして自己研鑽に励んで欲しいと切に願うものです。拡張なって、いちだんと充実した図書館は、そんな皆さんの格好の道場ではないでしょうか。

余談になりますが、五感を鍛えると第六感（甚力）が働くというおまけがつくという人もいます。

## 新任教官から一言

### 若い力への期待

物質化学工学科 嶋田 豊司

着任して約1ヶ月が過ぎました。実験台以外ガラス器具もない状態からの立ち上げは、非常に大変ですが楽しみもあります。第一印象は、若い年齢の学生から成人した学生までを見かけるキャンパスに圧倒されたことです。しかし、私の理想はまさにそこにあります。すなわち、若い年齢から専門性をもつことは、フレキシブルな頭脳で最先端研究にふれることになります。サイエンスにとってアイデアは最もpriorityの高いものだと思います。年齢がたつにしたがって“常識で考えられないこと”は、自然と自分自身の中で排除していく傾向が生まれてきます。また、それに遭遇しても失敗として考えもしなくなります。それは、いままで学んできた知識に照らし合わせて、合致しないから排除するわけですから、多くの知識を得た証拠でもあります。しかし、サイエンスにはそれが曲者です。着任式の時、セレンディピティー (serendipityと綴ります) の話をしました。これは思わぬものを偶然に発見する能力と言う意味です。セレンディピティーは誰にでもやってきます。ただし、夢中になってあることに集中し行動 (化学では実験) している者にだけやってきます。やってきたときは常識で考えてはいけません。しっかりと非常識を見抜く力が要求されます。柔軟な頭脳からアイデアを出し、非常識を見抜く、そのような力こそ奈良高専の学生に期待される場所であると確信します。そして常識から外れたところに非常に面白いものがまだまだ転がっています。

私は、高校二年生の時ワトソン・クリックの

「二重らせん」を読みその魔力にとりつかれて化学の世界に入り込みました。その魅力はマクロの人間、否生物がミクロ (ミクロではなくナノいやもっと、オングストロームの世界) で解明できる凄さでした。やがて有機化学を指向し、オングストロームの分子の世界の統一性すなわち、ある規則にしたがって反応が進行することの面白さに魅了されていきました。手前味噌ですが、最近見出したシリカゲルに有機官能基を担持する新規反応 (*J. Am. Chem. Soc.* 2003, 125, 4688) は、1947年から、シリカゲル担持の方法がある一つの方法しかなく、しかも綺麗な (pureという意味) な表面が作れなかったことへの解決の大きな発見でした。この方法は、多方面での応用が期待されています。この発見は、既存の方法を用いての研究中、うまくいかないので紆余曲折の後、ダメもとでやってみた思い切った計画からの金の卵でした。皆様にも、研究中このような快感がきつと訪れます。何がきっかけでもいい、一度でも面白いと思えば勝ちです。これからの若い力に期待しています。



## 新任教官から一言

### 読書のすすめ

情報工学科 山口 賢一

私は、学生として本科と専攻科の合わせて7年間、奈良高専に在籍していましたが、通学途中の電車の中で読むマンガが愛読書で、他にはたとえばテスト前に一夜漬けで教科書を読むことぐらいでした。

大学院で本格的に研究に携わるようになると、多くの専門書や論文を読む必要がでてきました。特に急速に発展してきた工学系の分野では、膨大な専門書や論文の中から自分の研究に関連する分野のものを探し出し、さらにその新規性と問題点を理解して、自分の研究へと取り入れていくことが必要になります。

また、これらの資料はほとんどが英語であるため、英語力も必要になりました。さらに、自分の研究がまとまると論文として発表する必要があります。この論文も自分の研究の新規性や有効性を上手く読み手（査読者）に伝えられないと、論文誌に採用してもらえないため、自分の乏しい文章力と身に付けたばかりの知識を総動員して作成しました。

高専では、将来技術者として必要になるであろう基礎知識を授業や実験を通して得ることができます。また、他人に自分の仕事や提案を伝える訓練もレポートや卒研発表などで行うことができます。

しかし、高専を卒業後は、自ら膨大にある新しい情報の中から、必要な知識を入手し、さらに自分の考えを他人に正確に伝えることが要求されます。

みなさん。とにかく本を読みましょう。どんな本でもいいと思います。マンガでも素晴らしい文章表現はありますし、たくさんの本を読むことで、自然に文書力や必要な情報の検索力なども身に付きます。奈良高専には大学にも負けない立派な図書館があります。みなさんもこの図書館を有効に利用して、たくさんの本からいろんな知識や技術を習得し、私のように高専を卒業してから苦勞をしなくて良いように願っています。

## “シラバスコーナー” 開設 —教育プログラムと連携した蔵書構成を—

本校では授業内容・方法の改善やシラバス発行など、分かりやすい授業の実現のため各部門でいろんな取り組みがなされています。図書館でも、「教育プログラムと連携した蔵書構成を」ということで、昨年度からシラバス掲載の補助教材、および参考書を収集することになりました。一階閲覧室にコーナーを設け、関連書籍を配架していますので、ご利用下さい。

（先生方には、今後新たに補助教材や参考書を指定された場合、図書館に書名等、ご連絡いただくと大変たすかりますので、この場をお借りしてお願いしておきます。）

**お知らせ** これまで3月末の統計結果で行っていた多読表彰は、年度末の混乱を避け、在学中に表彰を受けられるよう、今年度より期間を4月から12月末までと設定することになりました。昨年度の表彰クラスは、1位専攻機械制御、2位5M、3位4M、4位2S、5位5S（すべて旧クラス）でした。各クラスの図書委員は、4月25日校長室で表彰状を授与され、校長先生から副賞と激励の言葉を受けました。

## 卒業生からのメッセージ

### 図書館の利用

大阪大学 浦岡繁宣  
(機械工学科)

卒業生からのメッセージといっても何を書いたらいいかかわからないので、私が図書館をどのように利用してきたのかを書くことにします。

奈良高専に入学して初めて図書館に入って驚いたのは、漫画やファンタジー小説が多くあるところでした。喜んで何冊かの小説を借り、読んだことを覚えています。それが奈良高専図書館の最初の利用でした。それからは図書館をよく利用し、1、2年の頃は小説や実習の報告書作成のための図書をよく借りに行きました。といっても、小説を借りるのがほとんどでした。私は小説を通学時に読んでいました。通学時間が長かったことと暇だったため、多くの本(小説)を読むことができました。読みたい本を読み終えた後も、何かおもしろい本がないかと図書館に行っては小説のコーナーをよくうろついていました。

3年からは、あまり小説は借りず、レポート作成のためによく図書館を利用しました。特に、この図書館には他の図書館では見つけることができない専門書があるので助かりました。専門書などを調べるときに役に立ったのが、コンピュータでの図書検索です。コンピュータでの図書検索はタイトルや著者名を打ち込むことで、その本の場所、貸し出されているかどうか、予約があるかどうかが表示され、それらがすぐにわかるのでとても便利でした(図書館で本を調べるときはやってみてください)。

私は以上のように図書館を利用しました。今考えればよく利用したものだと思います。しかし、図書館でやりたくてもできなかったことがあります。それはビデオやLDを見ることです。一度利用してみたかったのですが、「いつでも使える」という思いから一度も利用することなく卒業してしまいました。このことが残念でありませんが、

暇つぶしにまた勉強に奈良高専の図書館を有効に活用できたと思います。皆さんもぜひ図書館を利用して高専生活を楽しんで下さい。

### 図書館は活用してなんぼだ!

日都産業 黒田健介  
(機械工学科)

どんな時に図書館を利用するかといえば、多くの人が試験前やレポート提出前に特に利用していることでしょう。僕の場合も、レポートを書くときが大半でした。特に高学年ではたくさんの課題を出されたため、調べ物をするときにとっても役立ちました。この図書館には、たくさんの工学系の専門書やJISの規格書などがありますが、これらの文献は、近所の図書館にはありません。もしここを利用できなければ、ほとんどのレポートの評価は不可になっていたことでしょう。考えただけでも恐ろしいです。

あまり堂々とは言えませんが、寝ていたこともあります。別に寝るために来ていたわけではないのですが、調べ物をしている間についてウトウト…ということが多々ありました。そういう時間は非常に好きでしたが、迷惑なのでやめるべきでしたね。混んでるときにはさすがに寝ませんでした。それからレポートに追われ、閉館ギリギリまで居座ったこともあります。また変わった使い方として、製図の課題をやったこともあります。図書館の大きな机を利用して、そこに紙を広げ、図面を書いていたのです。書き出せばきりがありませんが、本当に好き勝手な使い方をさせてもらいました。よく怒られなかったな、とつくづく思います。

こんなことばかり書いていると、課題の提出前以外に使ったことがないみたいですが、部活が始まるまでの時間を過ごすために良く来ていました。特に何の本が読みたいという目的はありませんでした。とりあえず来て本棚を眺め、興味を引く本を適当に読んでいただけです。しかし、そんな

なときに思いがけず面白い本にめぐり合ったりするから不思議なものです。この図書館には様々なジャンルの本が揃っていますが、それは大きなメリットだと思います。文学や小説から雑誌に至るまで、幅広く読んでみると、多くの発見があるのではないのでしょうか。せっかくこれだけの設備があるわけですから、大いに図書館を活用しましょう。試験やレポート前の追い込みだけではもったいない。様々な本を読み、有意義な学生生活を送って下さい。

## もうひとつの講義場所

大阪大学工学部 田辺 稔  
(電気工学科)

奈良高専には講義室や研究室(実験室)とは違い、勉強できる場所がもう一つある。それは図書館であると僕は思う。高専は図書室ではなく図書館である。1年生の時にこの『館』という文字が大きな文字であった。そして、1年生の担任の先生に連れられて、初めて図書館に入った僕は大きさに驚いてしまった。当時の図書館は2階建てではなく、今に比べて小さかったのだが、いざ入ってみると、図書館という名にふさわしかった。今、5年間を振り返ってみると、この場所で自分の学力を付けたような気がする。

まずは1年生。この時の保護者懇談会で担任の先生はこのように言ったのが今でも心に強く残っている。「宿題は勉強じゃない。講義の中で興味を持ったことを図書館で勉強するのが勉強である。」この言葉に流石教授と思った。また、僕は電力関係のことを勉強したいと思っていたが、実際、その本を開いてみると全く分からない数式だらけだった。早くこの数式を理解したかったが、まずは1年生の基礎をしっかりとすることに徹底し、友達とテスト勉強などをした。2, 3年生になるとレポートのため、図書館で調べ物やレポート作成に力を入れ閉館までいたこともあった。次の4年生の時が一番図書館を利用したと思う。2, 3年と同様、レポート作成のために本を借りその本で分からないことがあれば、先生の所へ教えてもらいに行ったりもした。また僕は進学を希望していた

ので、特に数学などの分からないところや先生のお勧め参考書などを借りに行った。ここで一つ問題があった。4年は5年と違い一人の最大化貸し出し冊数が4冊である。図書館の人に「レポートだけで四冊借りてしまってもう借りられへん。4年も6冊にして」と言ったことがある。また、進学のために開いてくれている土曜日の福罵講義の休憩中にも利用し、4年から5年になる春休みには毎日のように図書館にいたような気がする。5年生では卒研のために沢山本を借りた。

この5年間、今まで本を開かなかった僕が開くというもうひとつの講義場所がこの図書館だったのである。この5年間でやるべき事をしていれば技術者としての実力はつくであろう。なぜなら、『図書室』ではなく『図書館』なのだから……。

## 卒業にあたって

関西電力 玉井芳英  
(電気工学科)

時の流れを感じさせない郡山市の片隅で、広大な校庭と清閑な静けさを有する国立奈良工業高等専門学校。ここで我々は、5年間待った。5年後の社会がどうなっているのかも知らずに……。

中学を卒業し、1校から1人という超ブランド感のある奈良高専に胸を躍らせて入学し早5年。今思い返してみるとあっという間の5年間でもあり、長い長い毎日でもあった。そして、ここで我々は友との深い友情と強い絆を得た。これは、一生涯の宝となるだろう。

だが、5年は長すぎた。現在、日本は深刻な不況下にあり、企業の倒産などによる失業率の増加や新卒者の就職難など過去最低最悪の状態にある。また、財政改革の波が押し寄せる中、数年後には母校奈良高専も国立ではなくなり民营化されているかもしれないのだ。さらに、世界はアメリカ対イラクの関係を引き金として、第3次世界大戦に突入するかもしれない危機に見舞われている。そんな中、我々は卒業し、それぞれの道を歩もうとしているのだ。

友よ！これから始まる人生に於いて目指す企業へ入社できた者も、大学へ進学する者もこの改革

の嵐は今がピークなのではなく、今始まったばかりなのだということを肝に銘じて、これから起こりうるであろう大企業の倒産や大学の合併など如何なる波に飲み込まれようとも自分が奈良高専の出身であることに誇りと自信を持って、また5年間かけて先生方が授けてくださった知性と品位を忘れず生かし、それぞれの人生をしっかりとゆくりと歩んで行こうではないか。

最後にお世話になった先生方や職員の方々に心より感謝いたします。長い間、ほんとうにありがとうございました。

## コミュニケーションの大切さ

神戸商船大学 柴原 誠  
(電子制御工学科)

五年間の高専生活を終了するにあたって、この文章を書く機会が私に与えられました。そこで、私は今までの高専生活を見つめ直すことにしました。5年間いろいろな学校行事、寮の生活がありました。私の一番の思い出は部活動です。私は吹奏楽部に所属し、指揮者をしていました。この経験は私にとって、とてもプラスになったと思います。あまり音楽に関心がない方は、「指揮者はただ白い棒を振っているだけじゃないか」と思っておられる人もいますが、実は演奏者達のキャプテンなのです。サッカー、バスケ、野球などの団体スポーツにもキャプテンがいるように音楽にもキャプテンが存在するのです。このキャプテンはリーダーシップだけでなく、さらに音楽性も要求される責任あるポジションです。私は高専に入るまでは大勢の前で話をし、自分の考えや気持ちを伝えることができませんでした。しかし、指揮者をやったおかげで、今では少しも緊張せず堂々と話ができるようになりました。最後に、在校生のみなさんに伝えたいことがあります。それは「コミュニケーションの大切さ」です。もちろん友達とのコミュニケーションもですが、さらに先輩・後輩とのコミュニケーションも大切にしてほしいのです。方法は色々ありますが、私の経験からそれを自然とできるのは部活動であると思います。高専生活を充実させ、幅広い仲間を増やすた

めにも、ぜひ部活動に積極的に参加をしてコミュニケーションの幅を広げ、また深めてほしいと思います。

## 高専ってどうやる？

奈良高専専攻科 吉田 博史  
(電子制御工学科)

「普通の高校に行ったらこんなことやあんなことができたのに…」。高専にいればよく聞く言葉だと思います。私もよく言っていました。高専は確かに普通の学校ではありません。高校でもなく、大学でもない。どこの学校ですか？と聞かれた日にはおもわずため息…。「また説明せなあかんのか〜」と。でも、あるとき、せっかく受験勉強をして入ってきたのに悪口ばかり言ってどうすんねん。もっと良いところに目を向けてみようと思いました。そう思ってからこの学校を改めて見てみるとなかなかいい学校でした。まず、5年間って言うところを見ると、「長すぎやろ〜」という人もいるでしょうが、終わってみるとそうでもなかったです。それに、もともとのおんぴりが好きな私にとっては、普通の高校に行くと2年生から受験勉強をしてとか考えるとゾッとします。友達関係を考えてみても、15〜20歳の5年間を毎日一緒に過ごしたのはすごくいいことだと思います。3年間ならこんなに仲良くなってないかも。というような友達もいるし、5年になってからクラスの人気者になった人もいます。最近では「5年の付き合いやんか〜」というのが決まり文句になってきています。私は、春から専攻科に行くことになって、7年間この学校にお世話になることになりました。高専に入ったときは専攻科に行っている人が信じられませんでした。「7年は無理やろ！小学校より長いやん。」と思ってたんですけど、今は「あと2年間なんてあつという間やろな〜」って思ってます。感じ方は人それぞれなので、高専に合う人合わない人がいるかもしれません。でも、せっかく入学してきたのなら、今の状況を楽しむ努力をしてみてもいいと思います。せっかくの5年間を無駄に過ごすのはもったいない。在校生の皆さんも卒業するとき「高専でよかつ

た！」と言えるように過ごしてみたいかがですか？

## 私の本の選び方

アルファテックソリューションズ 山口裕栄  
(情報工学科)

高専での5年間、私は暇さえあれば図書館に行っていました。私の高専生活は図書館と共にあったと言っても良いかもしれません。しかし入学当時には、私はほとんど本を読みませんでした。だから、ここまで図書館を利用するようになるなんて私自身予想すらしていませんでした。

私が図書館で初めて読んだのは、神坂一さんの「スレイヤーズ」シリーズ（富士見ファンタジア文庫）だったと思います。中学の友人が読んでいた本だったし、テレビで見たような記憶があったので、まあ読んでみようかと思って読み始めました。そしてそのシリーズをすべて読み切ったからは、知っている題名の本、題名が気になった本、挿し絵が気に入った本というように、なんとなく「読んでもいいかな」と思った本を次々と読むようになりました。面白いことに、そういう本に限って結構自分の好みに合っている本だったりしたのです。それまで他人から薦められた本は、読むこと自体が苦痛だったり、たとえ読んでも記憶に残らなかったりしました。しかし、自分から手にした本は記憶に残るもので、これまで自分から読もうと思って読んだ本はすべて覚えているくらいです。私はこの経験から、本を読み始めようとする時に大切なものは本を選ぶ時の自分の直感だと思っています。たとえ有名な本でも、まったく読む気が起こらないならその本は私には合わないのだと思っています。

今、本を読むのが好きではないという人、また「本を読め」と何度も言われて嫌になった人は大勢いると思います。しかし、1冊でも好みの本に出会えたら、案外本が好きになったりするのではないかと思います。暇があれば図書館に行って、まあ読んでもいいかなと思える本を探してみてください。その本を読み終わる頃には、読書が苦痛ではなくなっているかもしれませんよ。

## 読書嫌いの方々へ

京都大学 中谷直輝  
(物質化学工学科)

僕は、読書が大嫌いです。高専5年間で読んだ本といっても1・2年次の読書感想文のために読んだ2冊ぐらいかもしれません。そんな僕ではありますが、図書館の利用頻度はかなり高めでした。というのも、僕は文学にほとんど関心がない代わりに、理工系の学問には大きな関心を持っているので好きこのんで専門書を読むことが非常に多かったからです。

まあ、専門書は難しいことばかり書いているので、皆さんはレポートを書くとき以外ではあまり開かないかもしれません。しかし、専門書が与えてくれる知識は、ほかのどんな本からも得ることのできない、また、われわれ理工系の人にとって重要なものばかりです。

それに、専門書を一から読む必要はありません。自分の知りたいことだけをピックアップして読めばそれで十分です。僕のようなガチガチの理工系人間にとっては、軽い読書より軽い「読書」です。ですから、たとえば皆さんが授業などで分からないことや疑問に思うことがあれば、友達や先生に聞く前にまずは、図書館へ足を運んで自分で専門書を読んで調べてみることをお勧めします。

これは、自分の知りたいこと明らかにする、言いかえれば、自分の分からないところをはっきりさせるということにつながります。そうなれば、人に聞くにしても、自分で調べるにしても、物事をよりスムーズに理解できるようになると思います。また、少しは勉強が楽になると思います。

そこで、読書嫌いの皆さん、専門書を読め！とまでは言いませんが、理工系の頭には専門書の方がしっくりくると思うので、もっと専門書を読んでみてはいかがでしょう。知識への興味がそこにあることを願います。



## 高専生活と図書館

東レ株式会社 堀内仁美  
(物質化学工学科)

クラスの中で貸し出し数が多いということで原稿を依頼されたのですが正直驚いています。なぜなら、私自身この五年間あまり読書という読書をした記憶がないからです。よくよく振り返ってみると、私は一年の頃から小説などではなく、レポートなどを書くための専門書を頻繁に借りていました。入学した当初はまだレポートなども少なく、図書館に行っても「こんな難しい本、誰が読むのだろう?」と思っていたのですが、学年が上がるにつれて私にとって必要不可欠なものとなりました。地元の図書館ではおいていない専門書も、高専の図書館ではすぐに見つかり、よく借りて帰って夜遅くまでレポートを書いた記憶があります。図書館には大変お世話になりました。

もともと読書をする習慣がほとんどなかったのですが、何回も図書館に通ううちに専門書以外の本にも目がいくようになりました。新刊などが置

かれていると結構気になるものです。その中でも特に気になる本があるとふと手を伸ばしている自分がいました。自分が興味をもった本は、忙しくても途中で投げ出すことなく最後まで読みきれられるものです。これは私自身感じたことです。私のように本をあまり読む習慣がないという人は、まず図書館に行ってみてください。そして自分の趣味と関係ある本を探してみてください。そして興味もてる本があれば借りてみてください。そしたら本を読むことの楽しさが得られるはずですよ。私は映画をみることが好きなので、気に入った映画の原作本を探して読んでみました。そうしているうちに、原作本だけではなく普通の小説にも興味を持つようになりました。全く本を読まなかった五年前の私には考えられない事です。ちょっとしたきっかけで人間結構変わるものです。

本を読む習慣がない人からすると「読書」というのはとても堅苦しく、苦手なように感じてしまっていますが、自分の趣味を通じて本を読んでも結構楽しいですよ。

## 2003年度学生会図書委員会

	機械	電気	電子制御	情報	物質科学
1 学年	小早川弘志	服部成輝	池田亮介	戎 昌也	石田雅史
			吉川尚男	林 重樹	
2 学年	八木賢大	山本裕一	緒方良治	衛藤 聖	道下友美
3 学年	森 安里	小林政善	古田耕平	安邊健一	上辻 広
4 学年	○辻 雄規	柴田和也	◎小林幹浩	○市川まどか	松本雅至
5 学年	乾 友亮	中村雄大	宇部佑哉	小川 優	辰巳哲馬

◎委員長  
○副委員長

## 2003年度図書館委員会・図書係

図書館長	宮本止戈雄					
副館長	宮田正幸					
委員	福嶋克彦	池永省吾	加納文質	中田敏夫	世古 忠	井口高行
幹事	織田辰男 (庶務課長)					
図書係	係長：杉本龍信、司書：福井洋子、清水美代、事務補佐員：松田愛子 奥島美恵子、山口雅子					

## お知らせ

夏季休業中(7月21日～8月31日)の開館時間等は次のようになります。

開館時間	平日 8時30分～17時	土・日曜日・祝日	休館
閉館日	8月4日(月)～8月15日(金)	蔵書点検のため	
長期貸出	7月4日(金)～9月2日(火)		
貸出冊数	8冊 7月11日(金)より実施		

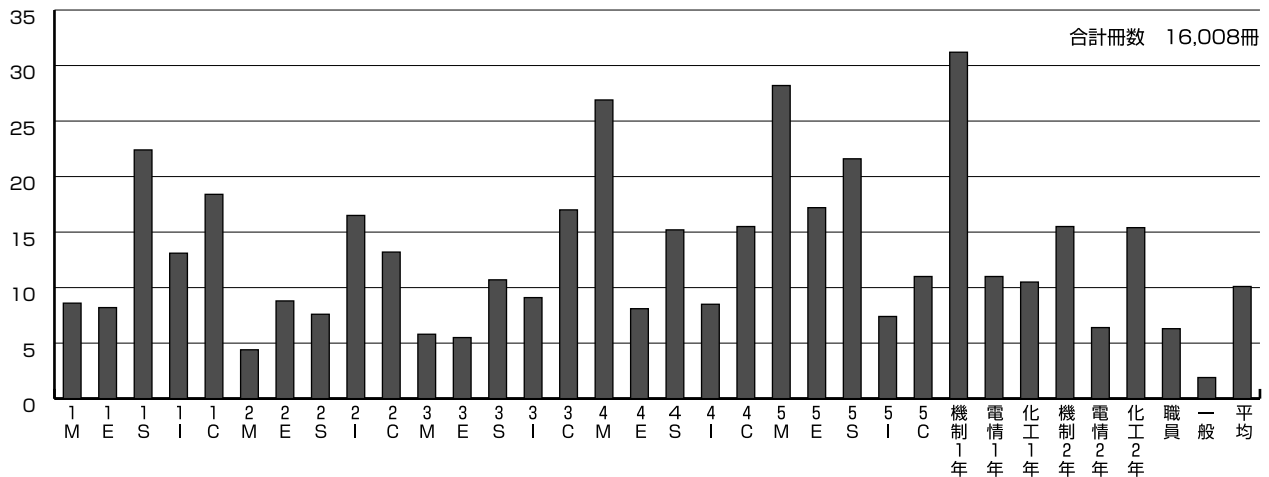
## 図書館利用状況

	2000年度	2001年度	2002年度
開館日数	270日	265日	265日
平日	232	230	231
土曜日	38	35	34
図書館入館者数	192,830人	82,666人	90,773人
平日	88,344	78,016	85,563
土曜日	4,486	4,650	5,210
一日平均入館者数			
平日	381人	339人	370人
土曜日	118	133	153
文献複写依頼件数	736件	633件	410件
受付件数	2	0	0
図書借受冊数	10冊	2冊	0冊
図書貸出冊数	17,898冊	15,288冊	16,008冊
1学年	2,237	2,494	2,978
2学年	1,110	1,742	2,114
3学年	3,710	1,745	1,995
4学年	4,288	3,854	2,992
5学年	3,181	2,756	3,263
専攻科	1,485	978	1,109
職員	924	913	933
一般	963	806	624

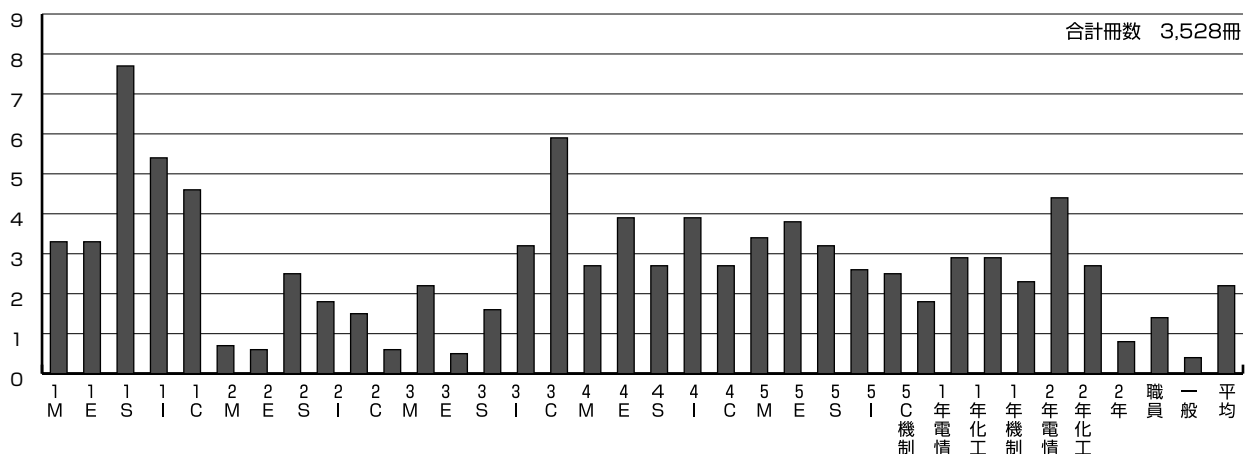
	2000年度	2001年度	2002年度
分類別貸出数	17,898冊	15,288冊	16,008冊
総記	1,824	1,249	1,312
哲学	203	137	233
歴史	402	420	398
社会科学	315	249	254
自然科学	3,143	3,060	3,402
技術	5,345	4,471	4,548
産業	80	67	53
芸術	1,635	975	1,194
言語	760	601	619
文学	3,822	3,715	2,344
未分類	369	344	51

CD-ROM等の視聴覚資料も含む、ノート記入による貸出分は含んでいない。

### 2002年度クラス別貸出冊数



### 今年度（5月末現在）クラス別貸出冊数



## 最近の書棚から

### だから、僕は書く

佐野 信一著

平凡社

どいうい経緯でこの本が新刊書棚に並ぶようになったのかは忘れてしまいましたが、最近読んだ本の中では最高でした。皆さんに胸をはってお薦めできる一冊です。10代のためのノンフィクション講座という叢書名が、内容の一部をものがたっています。主要部分は、青少年を対象とした、ある研修会の基調講演を元にして書かれています。歴史、民俗学、社会問題などあらゆる視点からノンフィクションとは何かというテーマに迫ります。手垢にまみれた既成概念に囚われることなく、人類の永遠の命題である「我々はどこから来て、どこにいて、どこへ行こうとしているのか」を追究し、それに答えようと一生闘う、そしてその探究にいそしむ決意をした…というところは感動ものです。著者が敬愛した民俗学者宮本常一の言葉に「いったい、進歩というのは何であろうか。発展とは何であろうか。「中略9進歩に対する迷信が、退歩しつつあるものを進歩と誤解し、時にはそれが人間だけではなく生きとし生けるものを絶滅にさえ向かわしめつつあると思うことがある。進歩のかげに退歩しつつあるものを見定めてゆくことこそ、われわれに課されて一もっとも重要な課題ではないかと思う」というのがあります。著者はこの言葉の意味を繰り返し問いただしながら多岐にわたるノンフィクション 仕事を続けています。6月には第2巻が出るということですので、今から楽しみです。

### 俺が、つくる！

岡野 雅行著

中経出版

日本が誇る製造業の技術は、元をたどれば町工場からの発明が少なくありません。著者はそんな町工場のひとつ岡野工業株式会社の社長さんです。従業員6人という会社です。そんな小さな町工場であるにもかかわらず、世界中で岡野工業しかできない技術の数々があります。世界一の職人岡野さんの哲学とは何でしょうか。長引く不況を乗り切るには？ 人をそだてるには？ それは語録のなかにいっぱい詰まっていました。構造改革だ、ヤレ法人化問題だと大忙しの昨今ですが、それを乗り切る妙薬もここにありそうです。学生さんは勿論ですが、教職員のみなさんにもお奨めです。物事の本質を見据える実学の人という印象を受けました。

### 大黒屋光太夫（上、下）

吉村 昭著

毎日新聞社

5少年漂流記、ジョン万次郎漂流記などに代表される漂流記は数々ありますが、江戸時代末期、極寒のシベリア大陸で10年の辛苦を経て帰ってきた伊勢白子の船頭大黒屋光太夫の物語ほど、スケールの大きいものはないのではないのでしょうか。ロシアの女帝エテカリーナに拝謁の後、国賓として扱われ、日露友好の架け橋となった大黒屋光太夫。波乱続きのなか、自身の教養、人間性に助けられ、ロシア人の心に深く入り込んでいきます。きっと魅力的な人物だったんでしょうね。（会って見たかった）後にロシア語の辞書づくりなどにも携わります。最後まで希望を失わないことの大切さを教えられました。

### 50羽から500羽へ

長谷川 博著

どうぶつ社

絶滅の危機に瀕するアホウドリ保護活動の25年にわたる思考と行動の記録です。1976年以来、美しい海鳥であるアホウドリの完全復活という明確な夢を胸に、海鳥に半生をかけた著者の25年にわたる研究と行動の記録です。1999年には念願の1000羽を超えました。今後は完全復活にむけさらに幅広い保護・増殖の活動をとねがう著者は、「アホウドリ」という嬉しくないを冠せられた鳥たちに、「もっと相応しい名前を」と訴える心優しい研究者であります。他の生物よりも人間のほうが優れているという思い上がった考えが、このような名前にも現れています。アホウドリはほんの一例です。

## 午後のひとときコーヒブレイク

小田島 本有

近代文芸社

著者は釧路高専国語科の先生です。高専の先生は、授業のかたわらこんなことを考えています。学生の皆さん、読めば国語の点数は確実に上がりますよ。

## 漱石の孫

夏目房之介

実業之日本社

れっきとした漱石研究者がいらっしゃるので、漱石のことは語るまいと、堅く心に決めてはいますが、ミーハーの漱石ファンとして、やっぱりこの本を紹介せずにはいられない。マンガ評論家にしてたまたまあの「文豪・漱石」の孫という不幸な？運命を背負わされた著者。文豪の孫であることをどのように受け止めてきたか。またどのようにして「孫」問題をクリアしたのか？漱石100年後のロンドン訪問を機に、偉大な祖父・夏目漱石、私人・夏目金之介への思いをマンガ論や、歴史を背景とした比較文化論に発展させながら、時には軽いノリで綴っています。中学生の時、「出だしの唐突さが、やっぱり漱石に似てる」とヘンな誉め方をされ、職員室に抗議にいったという話など、坊ちゃんそっくりなどと妙に感心したら、著者に叱られるかな？ありがたいお上のご褒美に「ほととぎすかわや半ばで出かねたり」と平然と拒否したという硬骨の人漱石は、やっぱり私にとって最高の作家です。いつの時代でも憎らしい変節漢っていますよね。そんなの大キライ。

著者は1950年生まれですが、マンガ評論家（下手なマンガも描くと本人は言ってます）だけあって、「若い！」という感じです。〇〇せんせ、難しい専門書ばかりでなく、たまにはリラックスしてこんな本も読んで下さいね。



## 編集後記

先日、天才チンパンジーのアイが、学習しつつ、子育てをしているとの新聞記事を読みました。本能だとばかり思っていた母性はそうではなく学習の結果だったのです。自分が生んだ子どもをみて、ギャツと言って逃げ出したアイ。遺伝子に組み込まれたものですら、努力と、学習により次代に引き継がれていくというのは、驚きでした。

今年はDNA二重らせん構造の発見50周年だそうです。遺伝子の全貌が解明され、生命の神秘あるいは不思議というものはその領域を狭めつつありますが、まだまだ未知なるものもあります。その最たるものは感情、もしくは情感というものでしょう。雨の音に耳を澄まし・・・雨に濡れ艶やかさをました紫陽花を愛でる・・・そんな一日があってもいいですね。（そうした四季の移ろいを楽しみ感じたりするのは日本人特有の情感だとか）お忙しい中、紙面づくりにご協力下さった新任の先生方、卒業生の皆さん、ありがとうございました。（図書館委員会）

奈良工業高等専門学校図書館 〒639-1080 大和郡山市矢田町22 TEL 0743-55-6015

URL <http://library.nara-k.ac.jp/>